

各メディア 記者各位
(同時資料提供：大阪経済記者クラブ会員、外食産業記者会、飲食関係専門紙・誌)

「食の都・大阪スタイル宣言」の宣言発表会の開催について（取材方お願い）**【お問合せ先】**

大阪商工会議所 中小企業振興部 (中村・野田)

TEL 06-6944-6493

- 大阪の食にかかわる産官学の関係者が集い、一体となって食の都・大阪のブランド力向上に総合的に取り組む「食の都・大阪」推進会議（代表＝小嶋淳司・大阪商工会議所副会頭、松本孝・ミナミまち育てネットワーク執行役／事務局＝大阪商工会議所）は、本日開催の同推進会議において「食の都・大阪スタイル宣言」をとりまとめました。
- 大阪の食は、その多様性ゆえ特徴が絞り込めず、アピール力に欠けると言われがちです。当宣言は、こうした認識を踏まえ、大阪の食関係者がこれまで大切にし、今後も若い人々に受け継いでほしいと願う「食の都・大阪のDNA」を宣言文のかたちで端的に示すことを目的とし、大阪を代表する著名な料理人や料理研究家、調理師学校関係者など34名を対象にした聞き取り調査などを通じて作成しました。
- 当宣言の特徴のひとつは、和・洋・中など料理のジャンルを超えて、大阪という地域に共通する食の特徴を示している点です。このように幅広く料理を捉え、地域としての特性を明らかにしようという試みは、全国で初めてであり、まさに多彩な側面を有する食の都・大阪らしい取り組みだと言えます。
- つきましては、報道関係者を対象にした当宣言の発表会を来る2月2日（火）午後2時から「高麗橋吉兆 能舞台」にて開催いたします。同発表会では、当宣言の概要や今後の事業展開を説明するとともに、高麗橋吉兆が調理した「宣言祝い椀」（からすみ椀）をゲストの奥野史子氏（バルセロナ五輪シクロナイズドスイミング銅メダリスト）らとともに試食いただきます。
- 同発表会を取材いただける場合は、準備の都合等もごございますので、別紙資料3に必要事項をご記入の上、1月29日（金）10:00までにファクシミリで回示いただきますようお願い申し上げます。

以上

<添付資料>

- 「食の都・大阪スタイル宣言」の概要（資料1）
- 「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表会の開催概要（資料2）
- 「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表会のご取材要領及びご出欠回示（資料3）
- 「食の都・大阪」推進会議の組織概要並びに活動概要（資料4）

「食の都・大阪スタイル宣言」の概要

「食の都・大阪」推進会議

1. 主体（誰が）

「食の都・大阪」推進会議

2. 対象（誰に対し）

- ・飲食店、食関係産業（“作り手”として、宣言の内容を料理やサービスで実践し広めていただく）
- ・府市民（“食べ手”として、大阪の食に対する理解やその楽しみ方を深めていただく）

3. 概要（何を）

- ・「大阪料理」「浪速料理」などでは表現しきれない、料理のジャンル（和・洋・中など）を超えた“大阪らしさ”を、大阪を代表する料理人等からの聞き取りを経て言葉として紡ぎ出し、7項目の努力目標としてまとめたもの。地域活性化のテコとして期待するものであるが、同時に、大阪の地にとどまらず、食を愛する世界の人々と共有できる普遍性も目指している。よって、宣言というかたちで発表し、広く普及を図る。

【当宣言の新規性】

- ①料理ジャンルや業態を超え「大阪」という切り口で捉えた点。
- ②大阪の食における「大阪らしさ」やその所以は、従前より漠然とその存在が認識されていたが、数多くの料理人や料理研究家、指導者等へのヒアリング、助言等を得ながら体系的かつコンパクトに言語化した点。しかも、こうしたアプローチは当宣言が初めてである点。

4. 目的（何のために）

【産業振興の面】

- ・「大阪スタイル宣言」は、飲食店経営の行動指針・努力目標としての活用を意識して作成されているので、ストアコンセプトや社員教育に採り入れることができ、“大阪スタイルの店”などとして、他店との差別化に寄与する。
- ・「大阪スタイル宣言」は、料理ジャンルや業態を超えた“大阪らしい食の在り方”を示すものなので、和・洋・中など料理ジャンルの垣根や、料亭・割烹など業態の壁を越えた、料理人同士の交流や、食関連産業をまきこんだ新たなコラボレーションを促し、大阪の料理界の底上げに寄与する。

【都市プロモーションの面】

- ・食に関する大阪のブランドイメージ向上に寄与する。
- ・「大阪スタイル宣言」の実践店（その特定の在り方や方法は現在検討中）を一体的にPRすることで、国内外からの来阪客に対し、大阪らしいお店の紹介の選択肢が増え、集客面で寄与する。
- ・普及活動を展開することにより、府市民に「食の都・大阪」の一員であるという市民意識醸成に寄与する。

5. 背景（なぜ今）

- ・大阪は様々な食、食文化、食スタイルを生み出し全国に発信してきたが、日本の食を先導する立場であったが故に、それらが全国に普及する過程で自らの立ち位置が次第に不明確になりつつある。
- ・大阪の食のイメージは、一部の食に偏ったものになりつつあるが、大阪には現在も多様な食文化、食に関する資源が多数あるにも拘わらず、十分かつ効果的にPRされていない。

6. 手法（どのように）

「大阪スタイル宣言」は、「食の都・大阪」推進会議による宣言に基づき、料理人や料理業界、食関連産業の関係者ら自らが“担い手”として、この考え方を採り入れ、実践することを通じて、自然な広がりを作り上げていき、ムーブメントとなっていくことが期待されるが、当面は宣言主体者である「食の都・大阪」推進会議が、積極的に事業としてこの周知・普及を図っていく必要がある。（コンテスト事業や講習事業など）

7. 経緯

【平成 20 年 3 月】

「食の都・大阪」推進会議（※別紙「組織概要」「活動概要」参照）の前身母体である「大阪食彩ブランドプロジェクトチーム」が初期構想をまとめる。

【平成 21 年 1 月～平成 22 年 1 月】

「食の都・大阪」推進会議に分科会（ワーキングチーム）を設置
宣言の位置づけ、方向性、内容などについて 7 回の会合で検討。

【平成 21 年 1 月～平成 22 年 7 月】

大阪を代表する著名料理人ら 34 人からヒアリング。

【平成 21 年 10 月～平成 22 年 1 月】

上記の大阪を代表する著名料理人らに「食の都・大阪スタイル宣言助言委員」を委嘱。宣言の内容やその後の事業展開について助言を頂きながら起草。

8. 参考（食に関する宣言や運動）

「ヌーベル・キュイジーヌ（宣言）」…（1960～70 年代）※1973 年 10 月 仏 ゴー・ミヨ
「地産地消」……………（1980 年代～）※1981 年 農林水産省生活改善課
「スローフード（宣言・運動）」……………（1990 年代～）※1986 年 伊 ピエモンテ州ブラ
1989 年 国際スローフード協会設立大会で宣言
「LOHAS」……………（2000 年代～）※1998 年 米 ポール・レイ、ジルカ・リサビ

「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表会の開催概要

「食の都・大阪」推進会議

1. 日 時 平成22年2月2日（火） 午後2時～3時
2. 場 所 高麗橋吉兆（本吉兆） 能舞台 （2階「滯標の間」）
3. 宣言方法 宣言の場：高麗橋吉兆 能舞台
 宣言者：小嶋淳司・松本孝「食の都・大阪」推進会議 両代表
 立会人：奥野史子氏（ハルヒヤ五輪シクホイストスイング銅メダリスト）
4. 参加者
 - ・報道関係者
 - ・「食の都・大阪」推進会議関係者
 （「食の都・大阪スタイル宣言」事業ワーキングチームおよび同助言委員会の委員）
5. 内 容
 - ①「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表
 - ・午後2時（開会）挨拶
 「食の都・大阪」推進会議 代表
 ミナミまち育てネットワーク執行役 松本 孝
 - ・午後2時10分 宣言
 「食の都・大阪」推進会議 代表
 大阪商工会議所 副会頭 小嶋 淳司
 - ②宣言キックオフイベント「和・洋・中のコラボレーションで大阪スタイルを表現！（仮題）」ご案内
 - ・午後2時15分 コラボレーションの概要説明
 フランス料理「エプバンタイユ」 山田 精三 氏
 浪速割烹「 川」 上野 修 氏
 中国華膳「彩 菜」 大宜味 剛 氏
 - ③「食の都・大阪スタイル宣言」宣言祝い椀のご試食／記者質疑応答
 - ・午後2時20分 宣言祝い椀（からすみ椀）ご試食（代表、立会人、助言委ほか）
 ※ご試食中にご挨拶およびお料理のご説明
 (株)本吉兆 代表取締役社長
 「食の都・大阪」推進会議 委員・同大阪スタイル宣言ワーキングチーム 委員 湯木 潤治 氏
 - ・午後2時40分 宣言の説明、宣言を受けた今後の事業展開等について
 「食の都・大阪」推進会議 幹事・同大阪スタイル宣言ワーキングチーム 座長
 大阪市立大学大学准教授 小林 哲
 - ・午後2時50分 記者質疑応答
 （大阪経済記者クラブ、外食産業記者会、在阪の飲食関係専門専門紙・誌など）
 - ・午後3時 終了

「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表会のご取材要領及びご出欠回示

「食の都・大阪」推進会議

1. 日時 平成22年2月2日（火）ご入場：午後1時～、宣言発表会：午後2時～3時
2. 場所 高麗橋吉兆 能舞台（2階「滯標の間」）（大阪市中央区高麗橋 2-6-7 TEL：06-6231-1937）
3. ご来場 お車でご来場の場合、恐縮ですが、周辺のコインパーキングをご利用下さい。
4. ご案内・ご留意点

- ・宣言およびその説明が終了した後に、当会議の代表および立会人として呼び出しているゲスト（奥野史子氏）が、宣言祝い椀を試食するセレモニーを行います。
- ・質疑応答はその後に別途時間を設けて行います。
- ・報道関係の皆様方にも、宣言祝い椀をお召し上がりいただきます。
この際、当宣言の起草に携わった「食の都・大阪スタイル宣言」事業ワーキングチームおよび当宣言作成のヒアリングなどにご協力いただいた「食の都・大阪スタイル宣言」助言委員会も同席します。
- ・会場は、昭和戦前期の建物であり、天井や梁が低くなっている箇所、通路幅が狭くなっている箇所がございます。取材機材の搬出入に際しましては、壁や柱、天井の位置にご留意いただきますとともに、会場内でのカメラ撮影に際しましては、畳部屋での三脚等のお取り扱いにご注意いただきますようお願い申し上げます。

※本件担当：「食の都・大阪」推進会議（大阪商工会議所 中小企業振興部 経営支援担当）野田・中村
TEL：06-6944-6493 FAX：06-6944-6565
携帯(野田)：090-3678-2632 メール：motoki@osaka.cci.or.jp

おって、報道関係の皆様方には当日、宣言祝い椀をお召し上がりいただく関係上、**ご出席いただける場合は、下記に必要事項をご記入の上、1月29日（金）10:00までにFAX（06-6944-6565）でご返送いただきますようお願い申し上げます。**

FAX：06-6944-6565

「食の都・大阪スタイル宣言」宣言発表会（2/2午後2時～於 高麗橋吉兆）に
出席します

お会社名 _____ 部署名 _____

お名前 _____ メール _____

ご住所 _____

※ご記入頂きました情報は「食の都・大阪」推進会議（大阪商工会議所）から主に食関係情報のご連絡をさせて頂く際に使用します。

「食の都・大阪」推進会議 組織概要

「食の都・大阪」推進会議 委員委嘱先名簿 (50音順・敬称略)

代表	社)大阪外食産業協会 相談役理事／大阪商工会議所	副会頭	小嶋 淳司
代表	ミナミまち育てネットワーク	執行役	松本 孝
幹事	大阪市立大学大学院	経営学研究科 准教授	小林 哲
委員	伊藤忠ファッションシステム(株)		
	近畿経済産業局		
	辻学園グループ		
	大阪ガス(株)		
	大阪府府民文化部都市魅力創造局		
	社)大阪外食産業協会		
	あまから手帖		
	有限責任中間法人 食博覧会協会		
	社)大阪司厨士協会		
	株)京阪神エルマガジン社「ミーツ・リージョナル」		
	近畿日本ツーリスト(株)		
	NPO法人「浪速魚菜の会」		
	(財)大阪21世紀協会		
	(株)ケイオス		
	(財)大阪観光コンベンション協会		
	(株)JTB西日本		
	東果大阪(株)		
	社)大阪外食産業協会		
	大阪市 ゆとりとみどり振興局		
	近畿運輸局		
	大阪府 環境農林水産部		
	近畿農政局		
	(株)毎日放送		
	辻調理師専門学校		
	浪花うまいもの会		
	大阪芽生会		
	大阪府農業協同組合中央会(JA大阪中央会)		

事務局 大阪商工会議所 中小企業振興部 経営支援担当

「食の都・大阪」推進会議が順次実施する12の事業計画<参考>

- ①「食の都・大阪」ブランドアイデンティティ構築事業
- ②「食の都・大阪スタイル宣言」事業
- ③カウンター料理PR事業
- ④食博など食関係イベントを活用したアピール事業
- ⑤大阪の食の情報サイト構築事業
- ⑥海外ネットワーク構築事業
- ⑦若手料理人独立支援事業
- ⑧食材集積促進事業
- ⑨食関連産業振興事業
- ⑩食の総合教育・研究機関の誘致
- ⑪大阪版食育事業
- ⑫フードツーリズム事業

<ご参考>

「食の都・大阪」推進会議 活動状況

1. 本推進会議立ち上げの経緯と目的

- 大阪商工会議所は平成 16 年度より、大阪の「食」を事業テーマとして取り上げ、さまざまな事業を行ってきた。平成 19 年度には食に関する幅広い関係者からなる「大阪食彩ブランドプロジェクトチーム」を設置し、大阪の食がめざす姿の実現に向けて 12 の事業計画(別紙参照)を設定した。
- この 12 事業を推進し、大阪の食の総合的なブランドイメージの向上、食を支える基盤の整備を図ることを目的として「食の都・大阪」推進会議を平成 20 年 6 月に設置。今年度は推進会議を2回開催、ワーキングチームを4回開催したほか、各団体にて様々な事業や普及活動を行った。

2. 今年度の活動内容

(1) 「食の都・大阪」ブランドアイデンティティ構築事業

①「食の都・大阪」をPRするシンポジウムの開催

- ・大阪の多彩な食や食文化を内外にアピールする「食の都・大阪」のシンボルマーク(平成 20 年 12 月に決定)に添える「キャッチコピー」を募集したところ、47 都道府県から 6,088 件の応募があり、「おかわり！が止まらへん」に決定。
- ・入賞者・入選者の表彰式を含むシンポジウム「伝えよう！広めよう！大阪の食の魅力」を平成 21 年 5 月 24 日開催。124 名が参加。

②シンボルマーク等の普及

- ・シンボルマーク等の普及を目的に、飲食店、食関係メーカー・小売業、宿泊業等に、卓上スタンドや名刺シール、データ入りCD-Rなどを配布し、店頭や店内での掲出、印刷物等への印字の協力依頼活動を行っている。
- シンボルマークとロゴマークは、平成 21 年 7 月、商標登録が確定した。

(2) 海外ネットワーク構築事業

①リヨン市長らの平松市長表敬訪問に両代表同席

- ・大阪市が平成 20 年 9 月に加盟したDél i c e（世界のグルメシェフネットワーク）の本部があるフランス・リヨンの市長一行が平成 21 年 5 月 28 日来阪。平松市長、小嶋・松本両代表らが懇談。小嶋代表が「食の都・大阪」推進会議代表として挨拶を述べた。

②Dél i c e 総会に参加

- ・平成 21 年 9 月 10 日にラトビア・リガ市で開催されたDél i c e 総会に小嶋代表等が出席した。

(3) 大阪「新・和の料理」提案事業

①大阪特有の思想や手法を反映した料理や食に関する在り方の検証・理論構築・発信

- ・平成 20 年 1 月にワーキングチームを立ち上げ、大阪を代表する様々なジャンルの料理人・料理関係者約 30 人に、料理に対する考えや取組み、大阪の食や食文化の聞き取りを行った。
- ・ヒアリング結果を踏まえ、大阪特有の思想や手法を反映した料理や食に関するあり方を「大阪スタイル」と呼称し、キャンペーンやコンテスト等を通じて、大阪の飲食店での普及を図り、大阪の食文化の深化、都市イメージ向上を目指す検討をワーキングチームで進めている。
- ・この検討にあたっては、ヒアリングに協力頂いた料理人・料理関係者を“大阪スタイル”助言委員に委嘱することで、専門的な知見と現場のニーズを汲み取ることを重視している。

②「大阪料理ルネッサンス」の開催

- ・大阪で発展してきた料亭と割烹が、「食の都・大阪」推進会議の活動がきっかけとなって交流を始めた。これを契機に、両業界の間でコラボの機運が高まり、平成 21 年 11 月 29 日、エコール 辻にて、大阪の食が持つ魅力や奥深さを再認識し平成の大阪料理を考えるイベント「大阪料理ルネッサンス」を「食の都・大阪」推進会議他の主催で開催。

(4) カウンター料理PR事業

- ・大阪が生んだ文化であるカウンター料理文化を大商ニュースで全 6 回 P R した。

(5) 食博などのイベントを活用したアピール事業

①' 09 食博覧会・大阪へのブース出展

- ・平成 21 年 4 月 30 日～5 月 10 日の 11 日間、インテックス大阪で開催された同博覧会にブース出展。当推進会議の活動紹介や大阪市のデリス加盟などを広報するとともに、がんこフードサービス(株)、三和実業(株)の食事券が当たるクイズと当推進会議を紹介するリーフレットを配布。クイズの応募は 4,399 件。期間中 645,140 人が来場。

②外食・中食設備機器フェア 2009 への協賛ならびに出展

- ・平成 21 年 9 月 9 日～11 日の 3 日間、インテックス大阪で開催された同フェアに当推進会議が協賛するとともにブース出展。当推進会議の活動紹介や大阪市のデリス加盟を広報するとともに、シンボルマーク等の使用協力を呼びかけた。期間中 10,107 人が来場。

(6)若手料理人独立支援事業

- ・平成 21 年 11 月 21 日・22 日の 2 日間、千日前道具屋筋商店街で、同商店街振興組合、大阪市中央区南商店会連合会、本会議所中央支部、当推進会議が共催し、飲食店開業総合相談会「ミナミベンチャーウィーク」を開催。調理道具、金融、労務、店舗、開業計画等の無料相談を実施。当推進会議は飲食店開業経験者をブースに派遣し、開業や店舗運営などの相談に応じた。30 人の飲食店開業希望者が来場。今後は調理師専門学校などとともにワーキングチームを立ち上げ、支援策の検討を進める。

(7)食材集積促進事業

- ・当推進会議のメンバーである東果大阪(株) (重田秀豪社長) が主体となり、フランスで盛んなマルシェ (市場) を手本に、農産物の生産者と料理人・消費者をつなぐ青空市場を平成 21 年 9 月から平成 22 年 3 月までの間、4 会場で開催。

(8) フードツーリズム事業

- ・大阪商工会議所では、大阪市、大阪観光コンベンション協会とともに、「食」を取り入れた都市型ツーリズムを展開。堺筋倶楽部やル・ポンド シェル(旧大林組本店)など近代建築を会場とした「大大阪レトロナイト」を実施。本年度は 7 月末時点で計 5 回開催し、のべ参加者数は 313 人。

以 上